

122024

診療放射線学部

1年

堤 翔子

授業について、ソウルについて

1. 授業について

高麗大学では3年生の講義を受けさせていただいた。内容は主にIMRTであった。IMRT(強度変調放射線治療)とは放射線の当て方自体を改良することによって、がん当たる放射線量のみを増やし、合併症を減らそうという流れの最先端にある治療法である。かつての放射線治療の技術では、臓器の位置を的確につかむことができず、他の臓器にも余分な放射線が照射されてしまう。また、がん以外の臓器が耐えられる放射線の量に抑えると、がんに対して十分な治療ができなかった。IMRTは、ある一方向からの放射線内で、放射線の強弱をつけることができる。いびつながんの形をコンピュータが読み取り、がんだけに強い放射線が当たるように各方向からの放射線量を不均等に加減する。この計算はコンピュータがやってくれる。コンピュータの助けを借りて腫瘍のみに放射線を集中して照射できる革新的な照射技術で、これにより合併症を軽減しながら根治性を高めるといった従来では実現不可能であった放射線治療が展開できるようになった。

大学の講義は英語で行われていた。講義内容はほとんどわからない状態に等しく、英語力の違いを感じた。高麗大学の学生に聞いたところ、小学生のころから英語の授業が週3時間くらいありテストもするといっていた。英語で普通に会話ができている、会話をしていて自分の学力のなさを感じた。また大学には24時間使える学習室もあり、学力の向上をはかる環境も整っている。自校はのんびりしているような気がした。



2. ソウルについて

まず、ソウルについて車の交通量に驚いた。片側5車線くらいが普通にあり、途切れなく車が走っている。道路をわたるときも日本と比べたら自動車のほうが優先のような気がした。右側通行なのでなれるまでは不思議な感覚があった。狭い市場のようなところも当たり前のように自動車が走るし、バイクもあまり歩行者を気にせず走っている気がした。バスや地下鉄も発達しており、運賃はだいぶ安い。移動はとてもしやすいと思う。地下鉄の利用者をみるとほとんどの人が町スマートフォンを使用していたのがとても印象に残っている。

町並みは日本とほとんど変わらないが、ゴミが放置されていたり、古びた建物が並んだりするところがあり衛生面では日本の方が安心できる気がした。看板にはハングルが書かれているが、あまり外国に来たという印象は持てなかった。セブンイレブン、ミニストップなどのコンビニがあったが、販売されているものは日本とは違い牛乳類が多い。時間帯によるのかもしれないが、お弁当やおにぎり、パンなどは買うが少ないように感じた。

免税店に立ち寄ったが、日本語が普通に伝わる。明洞などで買い物をしていても日本語で勧誘されるなど自分が思っていたよりも言葉の面で困ることはなかった。日本人が観光によくくる証拠なのだと思う。

天候は日本と比べて、気温は低めで夜は長袖でも少し肌寒かった。

出発前は竹島の問題で心配なこともあったが、暴動などはなく、治安も思っていたよりもよかった。私は海外に行くのは今回が初めてだったので、今回の研修では様々なものを体験できて自分はまだまだ知らないことが多いことがわかりとても勉強になった。

